



新たな学術交流協定



インド工科大学グワハティ校(インド)と締結

本学は、2015年6月23日、インド工科大学グワハティ校と大学間学術交流協定を締結しました。これにより、本学の大学間学術交流協定は、合計16か国46大学1機関となりました。

インド工科大学グワハティ校(IITG)

【学生数】 約5,000名

【特色】 北東インド唯一のインド工科大学として地域開発を担う、研究拠点大学。インド工科大学の中でも初期(6番目)に設置され、化学、生命科学、機械工学等に加え、工業デザインに関する教育・研究なども実施しています。世界の新興大学100に選出されています。

【本学との交流状況】 2012年7月に連合農学研究科が、2014年4月には工学部がそれぞれIITGの学部と部局間協定を締結し、学生・研究者の交流を進めてきました。今回、大学間学術交流協定となり全学的に交流を推進します。



地域科学部がアーカンソー大学フォートスミス校(米国)、 教育学部がカールスルーエ教育大学(ドイツ)など13大学2機関と締結

本学は、以下の大学・機関と部局間学術交流協定を締結しました。これにより、本学の部局間学術交流協定は、合計20か国46大学・機関となりました。(2016年2月1日現在)

【工学部】 3大学2機関

アメリカ合衆国国立衛生研究所 国立心臓血液研究所(米国)

バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・

水素研究センター(ドイツ)

ブンハッタ大学(インドネシア)

パダン州立大学 数学自然科学部(インドネシア)

チュラロンコン大学 理学部(タイ)

【教育学部】 3大学

シーナカリンウィロート大学 教育学部(タイ)

カールスルーエ教育大学(ドイツ)

山西師範大学(中国)

【地域科学部】 2大学

アーカンソー大学フォートスミス校(米国)

リール第3大学(フランス)

【連合農学研究科】 2大学

チュイロイ大学(ベトナム)

バンドン工科大学 生命科学工学部(インドネシア)

【応用生物科学部】 1大学

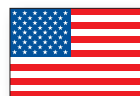
ガーナ大学 基礎応用科学部(ガーナ)

【連合獣医学研究科】 1大学

ガーナ大学 基礎応用科学部(ガーナ)

【工学部・流域圏科学研究センター】 1大学

クラクフ工科大学 環境工学部(ポーランド)



アーカンソー大学フォートスミス校(米国)



カールスルーエ教育大学(ドイツ)

第1回ウィンタースクール

本ウィンタースクールは、インド工科大学グワハティ校(IITG)との国際協働教育の連携*活性化を視野にいた、本学への留学誘導プログラムです。第1回は、60数名の応募学生から選抜された8名が、2015年12月4日から約3週間、本学で研究室体験、日本語研修、日本文化体験、地域企業訪問等を行いました。本プログラムの期間中にIITGのビスワス学長も来岐し、森脇学長と国際協働教育の連携に関して懇談した他、ウィンタースクール参加学生を激励し、自身の専門について特別講義を行いました。

本ウィンタースクールでは、グローバル(グローバル+ローカル)人材の育成に向けて、地域の日本企業の見学も取り入れています。参加学生らが、日本企業に対する理解を深めることで、本学進学後に、日本でのキャリア形成もイメージできるようなプログラムとして、今後も運営していく予定です。

*サンドイッチプログラム、ジョイントディグリープログラム等

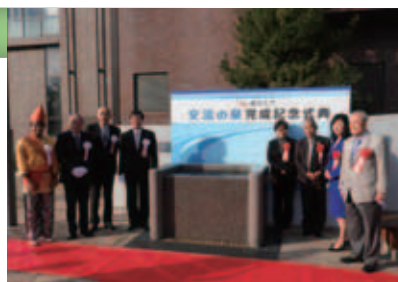
サンドイッチプログラム：大学に在籍しながら留学し、留学先で研究指導を受けられるプログラム

ジョイントディグリープログラム：連携する大学間で開設された共同プログラムを修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を授与するプログラム



岐阜大学井戸「交流の泉」が完成

一般財団法人国際クラブ様から寄附いただいた井戸が図書館前に完成しました。学生が常に多く集まり、外国人留学生と日本人学生が交流できる場となるよう、「交流の泉」と名付けられました。また、災害時には大口径の給水口から大量の水を供給することができます。



📷 スペシャル・ラウンジ(11月9日)

毎月実施しているイングリッシュ・ラウンジの特別版として、今年度は、中国語、ドイツ語、フランス語及び日本語のスペシャル・ラウンジを実施しました。日本語のグループでは参加者のリクエストにより急ぎょ、タイ人留学生によるタイ語のラウンジが催されました。初めて学ぶ言語に興味津々なビギナーや、言語を通して友好の輪を広げたい学習経験者ら約40名が参加し、ネイティブ・スピーカーである留学生や教員から各言語の基礎知識や自己紹介などを学びながら会話を楽しみました。



📷 地元企業との交流会(11月11日)

今回で4度目の開催となる地元企業との交流会が、岐阜信用金庫との共催で開かれました。今年度は製造業を中心に、海外進出や留学生の採用に意欲的な岐阜市周辺地域の企業15社が参加しました。本学からは、外国人留学生及び日本人学生合わせて約70名が参加しました。参加者らは各企業の事業内容や自社製品、海外進出状況等についての説明を熱心に聴講し、その後の懇親会では、各自関心のある企業の担当者から、直接説明を受けました。



📷 講演会「ASEAN経済の基礎知識」(11月18日)

日本貿易振興機構(JETRO)岐阜貿易情報センター所長の手島恵美氏を講師としてお招きし、講演会「ASEAN経済の基礎知識」を開催しました。

講演会には約50名が参加し、ASEAN各国の経済状況の違いや特徴、ASEAN諸国でビジネスを行う利点や留意すべき点等について、説明を受けました。様々な統計データや自身の体験談等を交えながらの説明に、参加者らは興味深く耳を傾けました。



📷 ポットラックパーティー(11月27日)

ポットラックパーティーは本学の留学生・学生・教職員とその家族らが、それぞれ食べ物を持ち寄り、英語でのコミュニケーションを通じて、世界各国の食文化を知る良い機会となっています。今回は、中国、イギリス等からの伝統料理やデザートが集まったほか、日本の家庭料理も振る舞われ、約40名の参加者を楽しませました。グループに分かれてクイズゲームも行い、ゲームを通してそれぞれの絆を深めました。





外国人留学生及び外国人研究者等との 学長主催懇談会(12月9日)

本懇親会は森脇学長をはじめとする役員、部局長等と外国人留学生及び外国人研究者並びにその家族等が一堂に会し、親睦を図ることを目的としており、昨年に引き続き2度目の開催となりました。今回は留学生から様々なパフォーマンスが余興として披露されました。インドネシアの学生達は鮮やかな伝統衣装に身を包み、息の合った歌と踊りを披露したほか、インド工科大学グワハティ校の学生は特技のギターの弾き語りを披露し、観衆を魅了しました。留学生及び外国人研究者等約120名の参加があり、大盛況の内に閉会となりました。



地方創生・外国人留学生交流フォーラム ～海外ビジネスに取り組む岐阜の企業～(12月9日)

十六銀行との共催で、岐阜県下の企業の方をお招きし、各企業の特色や国内外での活躍を多く紹介するとともに、岐阜県下の企業への就職が学生にとってどのようなメリットがあるのか、企業はどのような人材を求めているのか等の情報が提供されました。フォーラムには岐阜大学内外から留学生を含む約40名の出席があり、講演後の質疑応答も活発に行われ、日本での就職活動のポイントについてもアドバイスをいただきました。



外国人留学生からのメッセージ

「確固たる信念を持って、強くなきゃ」

応用生物科学研究科 応用生命科学専攻 2年 李 寧(LI NING)



私は2012年に来日し、岐阜大学に来て3年が経過しました。海外で勉強している学生研究者の一人として、確固たる信念を持つことが、人生において留学生生活を、更に意味のあるものにしていくのだと、深く感じています。

日本へ来る前に、私は中国国内の会社で社会人として4年間の勤務経験があります。この社会人としての経験を通じて、当時の自分を客観的に評価することができました。そして自分の強みと不足しているところを認識し、それを基に、留学の必要性と意義を明らかにしました。

もし、人生を一曲のシンフォニーに例えるなら、留学生活はその中の一章であり、主題は「試練」になると思っています。自分が熟知する故郷から遠く離れ、海外で学業を追い求める留学生達は皆、学業面における苦労だけでなく、生活面の試練もあるでしょう。しかし自分が困っている時、周りの皆さんがたくさん協力してくれました。先生は普通の仕事も忙しいのに、自分の時間を犠牲にして、私に多くのご支援とご指導をしていただきました。また、研究室に入ったばかりの頃、日本語がまだ未熟な私に、自分の質問に対して優しく答えてくださった先輩方、さらに、研究地域の皆様の協力と、頂いた地域に関する情報のおかげで、研究を進めることができました。皆さんから私は一つのことを学びました。もし人から尊敬される人生を送りたいならば、最もすべきことは、自分に自信を持ち、強く人生に立ち向かっていくことです。そうなる為に、国、年齢、性別、出身にとらわれることなく、勉強によって自分自身を高

め、成長を続けることが一番有効な方法だと思っています。

留学生活を通して、学業と人生に対して、より明確な意義と目標を持つことができると思っています。それはまるで手に地図を持っているような感覚です。まだ地図に載っている多くの場所に辿りつけてはいませんが、地図があるからこそ、今自分がどの位置にいるかがよく見え、これから目指す目標がはっきりと分かります。これからも目標に向かって、一步一步着実に努力を積み重ねていきたいです。





海外留学中の学生からのメッセージ

「新しい気づきと成長にあふれた留学」



工学部 社会基盤工学科 防災コース 3年 福井 彩水

2015年7月末に日本を離れ、シドニーで交換留学生として生活を始めて半年が過ぎました。この半年を振り返って、これから留学を考えている人に向けてメッセージを残したいと思います。

まずシドニーに到着してからの1、2週間は何をやるにも初めてで、毎日が刺激に満ち溢れていました。当時のことは今でも鮮明に覚えています。しかし、新しい環境に驚いてばかりいたら、あっという間に一か月が過ぎてしまいました。そこで私は日記をつけ始めました。一日を振り返ることで、その日の反省をすることができます。そして、次の日の細かな目標を立て、より毎日を充実させることができるようになりました。

この半年は、主にオーストラリアの文化や自然、アートなどについて学びました。課題はありますが、試験はないので、TOEFLやIELTSといった英語力を測るための試験にむけた勉強は各自で行いました。休みに入ると、レポートを添削してもらうために先生にメールをして、個別に対応してもらいました。

シドニー工科大学のいいところは、120か国から3万人を超える学生が

いることです。週に一度開かれる、友達を増やすためのイベントやサークルで自分から積極的に話しかければ、たくさんの友達を作ることができます。他の国からの留学生は自分と同じように、英語を勉強した経験を持っているので、つたない英語でも優しく耳を傾けてくれました。そして大学の寮には留学生だけではなく、オーストラリア人も住んでいるので、ネイティブスピーカーとも親しくなれます。ソファに座って話したり、一緒にご飯を食べたり、そんな何気ない時間がとても楽しいです。大学の寮に入っていないと参加できないイベントがあり、そこで最初にたくさんの友達ができるので、家賃はかなり高いですが入ることをお勧めします。

オーストラリアは多文化社会でハーフやクォーター、他国からの移民が想像以上に多く、彼らは2、3か国語を使いこなします。5か国語を話す友達もいます。こういった環境の中で中学校から勉強している第二言語さえままならない自分をとても恥ずかしく、情けなく思いました。しかし、その時に自分は比べる相手を間違えていたと気づきました。私が比べるべき人は半年前の自分でした。気づけば成長したと感じられる機会はたくさん溢れていました。友達に言われる一言であったり、試験の点数であったり、それらをひとつひとつ自分の自信につなげていくことが次の成長への第一歩になります。自分の留学の目的をしっかりと明確にし、その目的を達成するために、限られた時間を有意義に過ごすことが大切です。誰に強制されたわけでもなく、自分で決断したことであれば、責任をもって成し遂げられるはず。留学はあくまでも手段であり、留学中の目標はもちろんですが、さらに重要なのは留学を終えて日本に帰ってからの目標を立てることです。残りの半年は帰国後の目標を定めつつ、今まで以上に何事にも貪欲に、あらゆる経験を積んでいきたいです。ここには書ききれませんが、留学で得られたものは他にもたくさんあります。もし留学ができる環境にいて、迷っているのであれば、飛び込んでみるのはいかがでしょうか。



海外留学後の学生からのメッセージ

「外に出て初めて知ること」



医学部 医学科 4年 原野 義大

医学部に在籍している私は「トビタテ! 留学JAPAN」により2014年9月から1年間休学をして、カナダのバンクーバーへ留学し、ランガラカレッジに通っていた一方で小さなクリニック兼老人ホームのようなところで医療ボランティアに携わっていました。このような機関で学んだことは勿論大切な知識や経験となりましたが、ここでは取って代わった学習面のことでは無く、『留学して初めて出会った考え方』を少し綴ります。

2010年冬季五輪大会で有名になったバンクーバーの人口は郊外を併せて200万人近く。その半分以上が移民や第二世代なのです。そうすると‘予想外’のことが多々起こります。例えば、5人でご飯に行ったら出身国が全員違うのが当たり前だったり、みんな違う宗教であったりするので、一向にレストランが決まらないなんて日常茶飯事。私は留学当初はこうした‘予想外’の事に対して、柔軟に上手く対応できず戸惑うこともありました。

そんな留学生活が半年程過ぎた頃、現地の友人とハイキングをしている時に「バンクーバーは多文化過ぎて何をやるにしても‘予想外’で大変だ。」と少し愚痴っぽく言ってしまったのです。すると彼は「こ

の国の人々は、生まれた国も違えば常識やモラルさえも異なるわけで、他人は自分と違うと根底から認識することで相手を尊重することになる。だから違って当然! 全部‘予想内’だよ。」と優しい口調で諭してくれました。

これまでの私は、日本で出会った人々は殆どが日本の文化で育ったという共通点があるため、自分と同じような目線で相手の立場になって物事を考えてしまいがちでした。しかしそれは視野の狭い考え方で、一人一人のバックグラウンドが違う事を前提として、個人個人に向き合うことでより一層相手を尊重できるという新しい物の見方を学んだのです。

私は近い将来医師としての人生を歩む予定です。この考え方を将来の患者さん一人一人に生かしていくことができれば、より信頼される医師になれるでしょう。バンクーバーでの留学は、学習面に限らず、目には見えない「人間性」という面でも、‘予想外’の収穫があったと思っています。



鵜飼見学(6月12日)

公益財団法人岐阜観光コンベンション協会から岐阜の長良川鵜飼に招かれました。この見学は、岐阜が誇る鵜飼を留学生に紹介し、母国や周囲の友人に広めてもらうことを目的として行われています。初めて鵜飼を体験する学生は、伝統的な漁法に驚いていました。鵜匠から説明を受けるなどして、伝統文化である鵜飼を理解しました。「岐阜の伝統文化を間近に体感することができて感動した」という留学生の声を聞くことができました。



柿収穫体験(10月28日)

大野町かき産地協議会(岐阜県揖斐農林事務所、大野町、JAいび川、大野町かき振興会)主催の留学生を対象とした「柿生産者との交流会」に招かれました。

柿選果場見学、柿の収穫体験、グループに別れての柿のパウンドケーキ作りや、柿クイズをしました。また、出来上がったパウンドケーキと柿を試食しながら、意見交換をしました。柿には様々な種類があること等を学びながら、柿の美味しさ・魅力を発見しました。

美濃和紙・サンプル体験(11月3日)

岐阜南ライオンズクラブに留学生約20名が日本の伝統文化体験に招かれました。美濃市にある美濃和紙の里会館では、美濃和紙体験として和紙すきをし、各自作成した和紙の上にもみじの葉を飾りました。また、郡上市のさんぷる工房では、食品サンプルの体験としてフルーツタルトを作成しました。バスの中や昼食の際にも参加者同士が交流をして、楽しい体験ができました。



和太鼓・箏体験(12月5日)

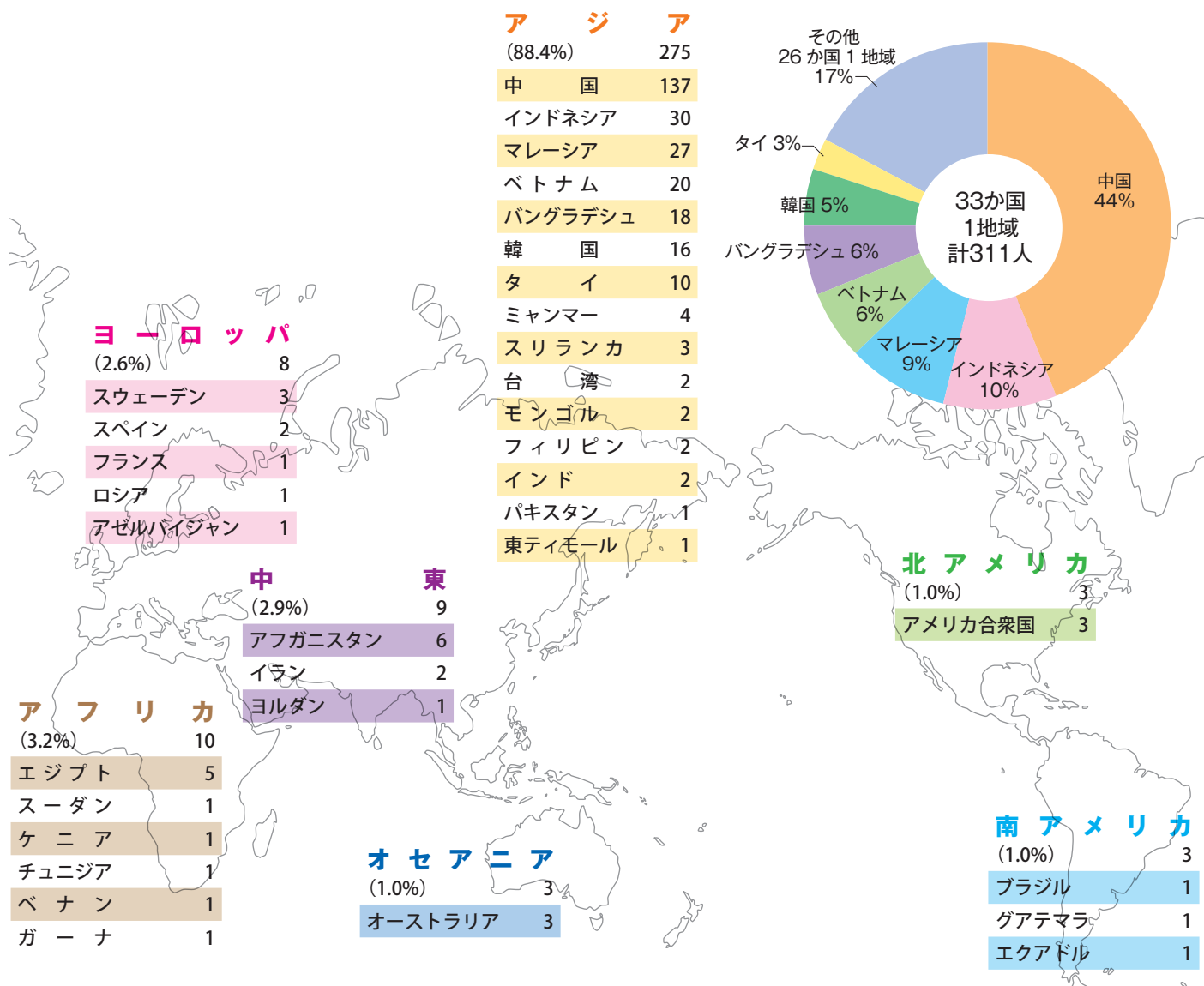
国際ソロプチミスト岐阜に留学生約30名が岐阜県立総合学園高等学校で開催された和太鼓・箏の体験に招かれました。昨年度に続き今回は、2回目の同高等学校の訪問で、高校生の迫力の和太鼓と、落ち着いた音色の箏の演奏を聴きました。その後、留学生は和太鼓・箏の体験をし、和楽器の難しさを知り、高校生のすごさを改めて実感しました。初めて和太鼓・箏を見る留学生も多く、感動していました。また、高校生と輪になって一緒に昼食をとり、ゲームやダンスをして交流することができました。

餅つき体験(12月13日)

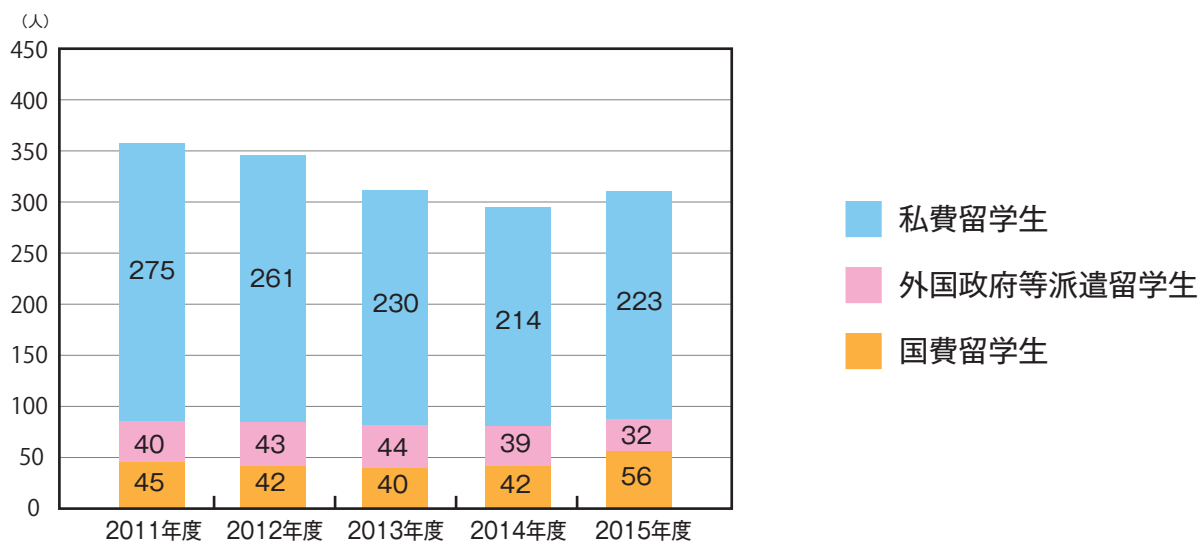
国際交流の輪∞黒野の主催で、国際交流会館前にて第21回餅つき大会が開催されました。毎年恒例の餅つき大会では、初めて餅を見る学生や初めて餅つき体験をする学生らが、みんなで楽しく餅つきをしました。出来上がった餅を、黄粉餅やぜんざい、お雑煮などにいただきました。参加した留学生らは、つきたての柔らかい食感のお餅を堪能したほか、花餅を作って、その美しさを競い合いました。



国(地域)別外国人留学生数 (2015年5月1日現在)(人)



外国人留学生受け入れ数の推移



大学間協定 (16 国 46 大学 1 機関)

機関名	国名	協定締結日
カンピーナス大学	ブラジル	1984. 8.27
サンディエゴ州立大学	米国	1985. 5. 7
浙江大学	中国	1986. 4.21
広西大学	中国	1986. 4.24
電子科技大学	中国	1986. 7.21
江南大学	中国	1986. 9. 3
中国医科大学	中国	1987. 8.15
ルンド大学	スウェーデン	1987. 9.12
ノーザンケンタッキー大学	米国	1990. 9.26
ソウル科学技術大学校	韓国	1992. 3.19
グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3
ユタ大学	米国	1997. 5.28
ユタ州立大学	米国	1997. 5.29
ハノイ工科大学	ベトナム	1998. 6.26
ウェストバージニア大学	米国	1998.12.16
カセサート大学	タイ	1999. 8. 5
内蒙古農業大学	中国	2000. 8. 8
シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
パノノン大学	ハンガリー	2001. 3. 2
アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
エルフルト大学	ドイツ	2002.12. 4
吉林大学	中国	2003. 5.20
チェンマイ大学	タイ	2003. 8. 4

機関名	国名	協定締結日
ダッカ大学	バングラデシュ	2004. 6.17
モンクット王トンプリ工科大学	タイ	2005. 1.10
華僑大学	中国	2005. 3.29
同濟大学	中国	2006. 3.16
ランボン大学	インドネシア	2006. 4.25
ポートランド州立大学	米国	2006. 6.19
内蒙古大学	中国	2007. 2. 6
木浦大学校	韓国	2008. 2.26
シバジ大学	インド	2008. 3.18
パイロイト大学	ドイツ	2008. 8.22
西南交通大学	中国	2008. 9. 5
ベンハー大学	エジプト	2009. 3.18
高麗大学校	韓国	2010. 1.15
カウナス工科大学	リトアニア	2010. 3. 8
ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12. 2
内蒙古師範大学	中国	2011. 6. 8
ヴィータワタス・マグヌス大学	リトアニア	2012. 1.19
ガジャマダ大学	インドネシア	2012. 9.13
シドニー大学	オーストラリア	2012.12. 5
スプラス・マレット大学	インドネシア	2013. 7. 8
パリ第11大学	フランス	2014.12.16
タイ教育省基礎教育委員会	タイ	2015. 3.10
インド工科大学グワハティ校	インド	2015. 6.23

部局間協定

機関名	国名	協定締結日	協定部局
チュロンコン大学 理学部	タイ	1994. 3.15	応用生物科学部
コンケン大学 農学部	タイ	2000. 3.27	応用生物科学部
コンケン大学 学部間共同開発研究所	タイ	2000. 3.27	応用生物科学部
コンケン大学 医学部	タイ	2000.12.18	医学部
国立全南大学校 工学部	韓国	2002. 2. 6	工学部
中国科学院 水利部水土保持研究所	中国	2008. 8.12	インフラマネジメント技術研究センター
国立獣医科学検疫院 獣医科学研究所	韓国	2008.11. 4	応用生物科学部
忠北大学校 医学部	韓国	2009. 4.17	医学系研究科・医学部
中国水利水電科学研究院 岩土工程研究所	中国	2009. 7.24	インフラマネジメント技術研究センター
カフル・エル・シェイク大学 獣医学部	エジプト	2009.11.15	連合創薬医療情報研究科
柳韓大学校 工学系列	韓国	2010. 9.29	工学部
グラスゴー大学 医学部	英国	2011. 4.20	医学部
アルバータ大学 理学部	カナダ	2011. 6.30	応用生物科学部
ベンガル大学 数学自然科学部	インドネシア	2011. 7.20	工学部
アッサム大学 生命科学部	インド	2012. 7.19	連合農学研究科
サー・バラシュラム・カレッジ	インド	2012. 9.17	工学部
モンゴル国立大学 地理地質学部	モンゴル	2012.10.29	応用生物科学部
チュロンコン大学 理学部	タイ	2012.12. 6	連合農学研究科
忠南大学校 工学部	韓国	2013. 1.18	工学部
マドリード・カルロス三世大学 工学部	スペイン	2013. 7. 9	工学部
マレーシア国民大学 理工学部	マレーシア	2014. 1.22	工学部
EMC2クラスター-IRTジュール・ヴェルヌ	フランス	2014. 3.13	複合材料研究センター
ドルトムント工科大学 機械工学部	ドイツ	2014. 6.23	工学部

機関名	国名	協定締結日	協定部局
マンダレー大学 自然科学部	ミャンマー	2014. 8.25	工学部
ブラヴィジャヤ大学 数学自然科学部	インドネシア	2014.12.16	工学部
ヤダナボン大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工学部
メティラ大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工学部
ディアンキマティ工科大学 工学部	ケニア	2014.12.16	工学部
トクンクアブドゥル・ラーマン大学 理工学部	マレーシア	2014.12.16	工学部
ハム応用科学大学 バイオエコノミーユニット	フィンランド	2015. 1.22	応用生物科学部
慶北大学校 工学部	韓国	2015. 2.27	工学部
シーナカリウィロート大学 教育学部	タイ	2015. 3.17	教育学部
アメリカ合衆国立衛生研究所 国立心臓血液研究所	米国	2015. 3.18	工学部
バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ドイツ	2015. 3.20	工学部
アーカンソー大学フォートスミス校	米国	2015. 6. 8	地域科学部
チュイロイ大学	ベトナム	2015. 6.25	連合農学研究科
ブンハッタ大学	インドネシア	2015. 7.30	工学部
バンドン工科大学 生命科学工学部	インドネシア	2015. 8.11	連合農学研究科
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガーナ	2015. 8.20	応用生物科学部
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガーナ	2015. 8.20	連合獣医学研究科
パダン州立大学 数学自然科学部	インドネシア	2015. 9.18	工学部
リール第3大学	フランス	2015.10. 1	地域科学部
カールスルーエ教育大学	ドイツ	2015.10.21	教育学部
クラブ工科大学 環境工学部	ポーランド	2015.11.30	工学部・流域圏科学研究センター
チュロンコン大学 理学部	タイ	2015.12. 2	工学部
山西師範大学	中国	2015.12. 7	教育学部

国際交流事業協力団体 (2013年～2015年)

アジアの明日を語る会	岐阜市青年団OB会	公益財団法人田口福寿会
一宮市国際交流協会	岐阜市役所	第一ブロック青少年育成市民会議
イビデン株式会社	岐阜車体工業株式会社	中部薬品株式会社
一般財団法人井上国際交流基金	岐阜信用金庫	公益財団法人朝鮮奨学会
公益財団法人SGH財団(旧:佐川)	ぎふ善意通訳ガイドネットワーク	長良製紙株式会社
株式会社エヌテック	岐阜フラッグアート展実行委員会	奈良県教育振興課
株式会社大垣共立銀行	岐阜南ライオンズクラブ	公益財団法人日本国際教育支援協会(ドコモ)
公益財団法人大塚敏美育英奨学財団	郡上八幡国際友好協会	丹羽鑄造株式会社
大野柿クラブ	グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会	羽島市国際交流協会
大野町かき振興会	一般財団法人国際クラブ	ハートランス株式会社
大野町役場	国際交流の輪∞黒野	廿日市市国際交流協会
NPO法人からいも交流	国際ソロプチミスト岐阜	公益財団法人服部国際奨学財団
河合石灰工業株式会社	NPO法人国際文化友好協会	株式会社パローホールディングス
北方自動車学校	独立行政法人国立青少年教育振興機構	有限会社フローラシマベ
公益財団法人岐阜観光コンベンション協会	サンメッセ株式会社	公益財団法人平和中島財団
財団法人岐阜県環境管理技術センター	JEES一般奨学金	北海道国際交流センター
公益財団法人岐阜県国際交流センター	JAIいび川	三田洞自動車学校
岐阜県国際交流団体協議会	JAPAN TENT 開催委員会	三菱商事株式会社
岐阜県庁	株式会社ジャパンプランツ	株式会社メイホーエンジニアリング
岐阜県日本中国友好協会	株式会社十六銀行	公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
岐阜産研工業株式会社	株式会社スギヤマメカレトロ	
公益財団法人岐阜市国際交流協会	女性医師就労支援の会	

本学の国際交流事業は、以上の企業・団体からの御寄付及び御協力により運営されております。(五十音順・敬称略)

岐阜大学基金(国際交流事業)へのご協力をお願い

岐阜大学における国際交流を充実・発展させるために、岐阜大学基金(国際交流事業)への御寄附をお願いいたします。寄附申込書を以下のURLから入手のうえ、御寄附いただきますと、本学の国際交流事業への寄附金として取り扱われます。主な国際交流事業として、私費外国人留学生学資援助金、研究者交流助成、短期留学(派遣)奨学金及び多文化交流事業等を行っております。

国際交流事業のための岐阜大学基金

URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/international/fund/message.html>

※本学への寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上全額損金算入を認める指定寄附金として財務大臣から取り扱われます。

国際交流ニュースレターについてのご意見・ご感想をお寄せ下さい

送付先 : 岐阜大学学術国際部国際企画課 国際総務係 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

Email : kokusaik@gifu-u.ac.jp

編集 : 岐阜大学グローバル推進本部

事務局 学術国際部国際企画課(本学の国際交流全般に関すること)

■ TEL : 058-293-3351 ■ Email : int_exch@gifu-u.ac.jp

学術国際部国際企画課 留学生支援係(留学生に関すること)

■ TEL : 058-293-2137 ■ Email : direct@gifu-u.ac.jp

本誌は岐阜大学公式Webページ上で公開しています。

岐阜大学国際交流ニュースレター

URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/international/newsletter/Newsletter.html>